

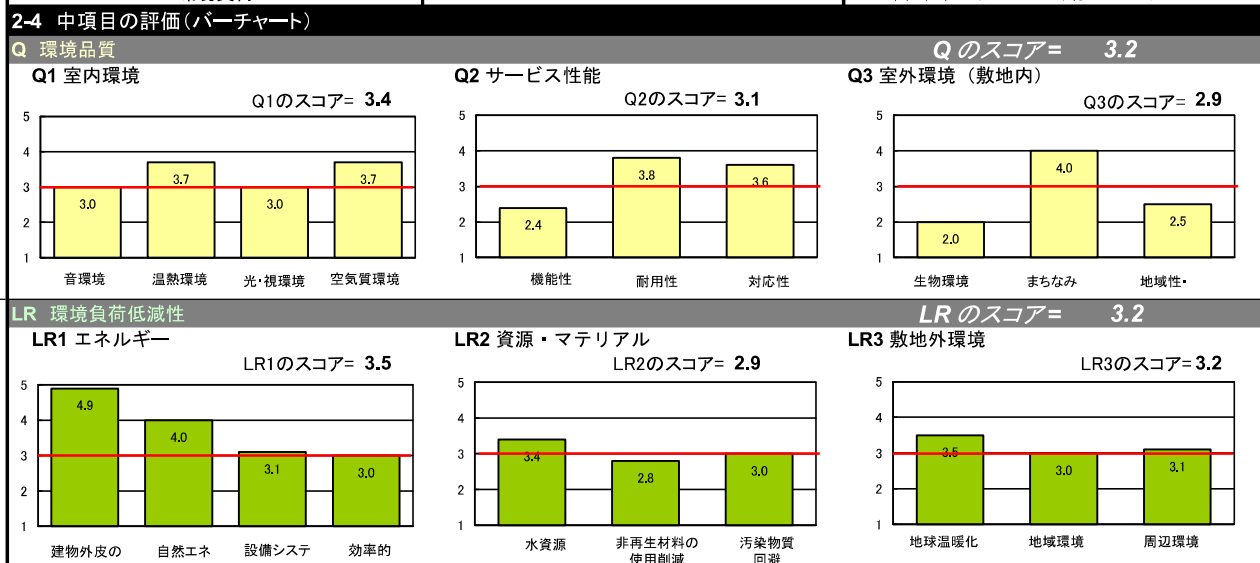
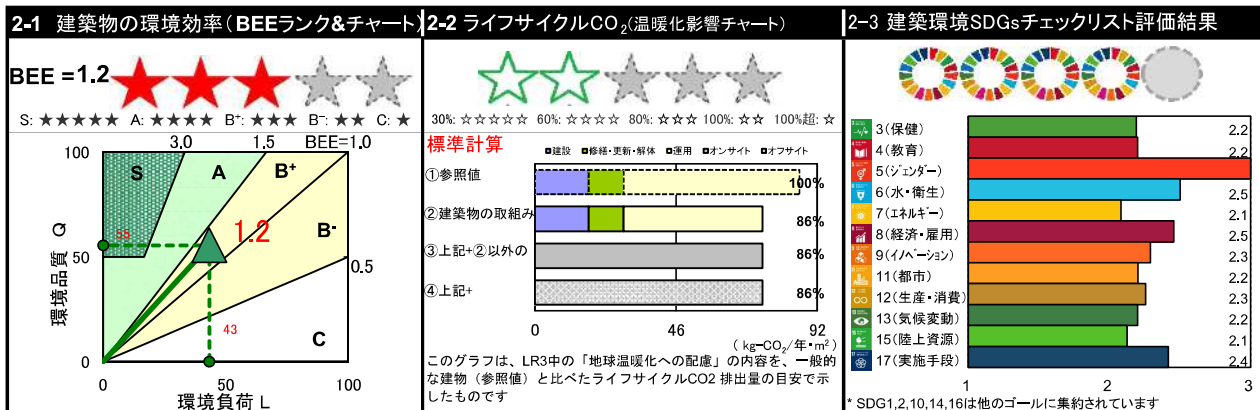
建築物名称	富士市総合体育館等整備・運営事業
受付日	令和5年3月9日
建物所在地	富士市大淵字荻ノ原115-1番地外
構造規模等	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造／地上2階／ 延床面12, 190. 95平方メートル／新築
建物用途区分	集会所
建築主	みんなのふじ株式会社 代表取締役 荒 健
工事完了予定日	令和7年3月31日

CASBEE[®]-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士市総合体育館等整備・運営事業	階数	地上2F
建設地	静岡県富士市大淵字萩ノ原115番1号	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居	平均居住人員	3,810 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,838 時間/年(想定値)
建物用途	集会所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年3月8日
敷地面積	19,024 m ²	作成者	瀬尾 孝史
建築面積	8,767 m ²	確認日	
延床面積	12,191 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		その他 0
Q1 室内環境 居室の換気量を十分に確保している、またCO ₂ 制御を行っている	Q2 サービス性能 内外装材に防汚性の高い建材を採用するなど、維持管理に配慮した計画となっている、また階高のゆとりが十分にある	Q3 室外環境 (敷地内) 積極的に緑化を行っている、まちなみに調和するような外観としている
LR1 エネルギー トップライト、ハイスайдライトを採用し自然エネルギーを積極的に利用している	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用等、節水に配慮している 地域産の木材を積極的に使用している	LR3 敷地外環境 適切な数の駐車場・駐輪所を設け、交通負荷抑制に配慮している

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	富士市総合体育館等整備・運営事業	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3	/5	ふつつ 
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.9	/5	ふつつ 
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5	ふつつ 
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6	/5	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 
		4点以上	ふつつ 
		3点以上	がんばろう 
		3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.3	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④耐用年数の長い外装仕上げ材を採用 ④耐用年数の長いダクト、配管材を採用	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	⑤ 外皮性能 ⑥ 昼光利用設備 ⑦ 昼光制御 ⑧ 躯体材料の耐用年数 ⑨ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑩ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑪ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑫ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑬ 主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤積極的に緑化を行っている ⑥空地率を十分に確保している	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦高断熱であり、建物外皮の熱負荷を抑制している ⑧トップライト、ハイスайдライトを設置している	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑪ 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓、擬音装置の採用 ⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能である	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑫ 雨水利用システム導入の有無 ⑬ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑭ 材料使用量の削減 ⑮ 既存建築躯体等の継続使用 ⑯ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑰ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑱ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑳ 有害物質を含まない材料の使用 ㉑ 消火剤 ㉒ 断熱材 ㉓ 冷媒	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮見付面積比が60%以下である ⑮隣棟間隔が0.5以上である	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
	“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)			
		■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯重要度係数が1.25 ⑰BCP対応が可能な計画としている	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑳ 電気設備 ㉑ 機械・配管支持方法 ㉒ 通信・情報設備
		“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		
		■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲ゆとりのある階高としている ⑲壁長さ比が0.1以下である	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
		■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑多目的スペースを設置し一部を地域に開放している	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.6	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤積極的に緑化を行っている ⑥まちなみや風景に調和する外観としている	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑬温熱環境悪化の改善) ⑬見付面積比が60%以下である ⑬隣棟間隔が0.5以上である	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑬ 温熱環境悪化の改善	